

基礎工事



家の基礎の形に合わせて地面を掘削します。碎石を敷き、転圧の後 基礎の基礎作りをします。重機を使って、家が建つ基礎となる部分を掘り下げていきます。この状態は、碎石を敷き詰めて、固めた後です。

防湿シート



地面からの湿気が基礎に侵入しないよう防湿シートを敷き、基礎形状を正確に造るために捨てコンを外周部に施工します。

基礎配筋



基礎配筋とは、基礎の鉄筋 部分を組む工程のことです。基礎の設計強度を出すためのとても重要な工程です。

配筋検査



第三者機関の JIO 配筋検査
基礎の鉄筋が正しく配置されているか、本数に間違いはないか、ずれはないか、などしっかりとチェックする検査です。配筋検査は基礎工事の一段階とされ、コンクリートを打設する前段階で行われます。

生コン打設



配筋検査が終了したら、生コンを床ベース部分に打設します。品質管理もしっかり行います。気温によっても強度が変わる為、夏場と冬場で配合を調整します。注入された生コンを平板に均すのは職人の長年の技術。

型枠組み立て



設計図に沿って型枠を組み立てていきます。型枠は、基礎を作る上で、コンクリートを流して固めるために設置する枠です。枠は、木製や鉄製が使用されます。コンクリートを流し込む前に行うのが、アンカーボルト設置作業です。アンカーボルトは、建物の構造材料と基礎をつなぐ、重要な金属製の部材になります。アンカーボルト設置作業後に、コンクリートを流し込みます。

型枠外し



養生の期間が終わったら型枠を外します。コンクリートの状態（ヒビや割れ、不良）などがないかしっかりとチェック。

配管



設備屋さんが給水（青）と給湯（赤）の管を配管していきます。コンクリートの状態（ヒビや割れ、不良）などがないかしっかりとチェック。架橋ポリエチレン管 周りに保温材がついている管を使って配管をしています。

土台



土台が並べられていきます。これらはすべて組み合わさっており、基礎と土台の間に“基礎パッキン”という部材を挟みこんでからボルトによって固定されています。鋼製束、昔は木でしたが、今は鋼製束を使っています。

断熱材



土台が終わった後は、土台の間に床の断熱材を敷きこんでいきます。最後にその上から剛床と呼ばれる床パネルを敷いて、釘で固定します。